

〈現在の到達点〉

体験農園マイファーム

全国 **86** 箇所・約 **150** ha
数千組の家族が利用

週末農業ビジネススクール
アグリイノベーション大学校

八百屋マイファーマー 3店

316人・**80**人
卒業生 在校生

約 **200** 万円/店
売り上げ(月)



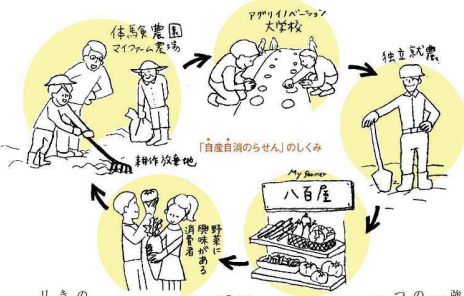
マイファームイベント



八百屋マイファーマー 世田谷店



アグリイノベーション大学校の講義の様子



「農業を始める人(家業継承も含め)を120万人にしたい」
「初心者には野菜の作り方を教えた後、観光ツアーをしたり、人と人をつなげたりするサービス業から始めて、しだいに本格的な農業に近づいていく」
「日本は農業ビジネスで勝負しようと思っても勝てない。でも人間と農作物の距離が近く、小さなものを有機的につなげることが得意。それが日本的な農業の強み」
「公社の成長が全国に広がり、そのまま耕作放棄地を減らすことにつながっている」
「アグリイノベーション大学校に若い人が多いのは、もはや社会のレイヤーがあくなくなったこと、地方にある魅力や価値に、彼らが気づいたから。右肩上がりではなく、横ばい成長の社会でも、いろんな幸せを味わえる。ダウンシフトしても生きていることを知っている。自分の感覚で幸せをはかっている彼らに応援したい」
「アグリイノベーション大学校の卒業生が地方の耕作放棄地をいきいきと農業を営めるよう、カリキュラムに、養蜂、発酵醸造

株式会社マイファーム
〒106-0004 東京都港区新橋5丁目8番4号
TEL 03-6456-9676
http://myfarm.co.jp

〈学びたいこと〉
体験農園 大学校、
就業応援、直売所、必要な
事業を生み出し、頼りになる
「らせん」循環力を自造

(株)マイファーム 代表取締役
西辻 直一 さん

わさび栽培などを入れ、地方の価値を見つければ実現していくサポートをしたい」
「僕の仕事は3つ。①会社の方向性を示す計画を立て、それにどうアプローチするかを考える。②スタッフを適材適所に配置すること」
「指針にしているアフリカのことわざ。『早く行きたかったら、ひとりでいきなさい。遅くへ行きたいなら、みんなで行きなさい』」
(株)マイファーム 代表取締役
西辻 直一 さん

【ビッグイシュー・日本版】254号 (2015年11月1日発売) より 取材・構成 【ビッグイシュー・日本版】編集部 プロフィール写真撮影 中西真樹

農業の蘇生



株式会社マイファーム「自産自消のらせん」で、耕作放棄地(40万ha)を農地に変え続ける

アグリイノベーション大学校の生徒(写真提供:株式会社マイファーム)

「ストリー」
東京都の約10%に当たる日本の耕作放棄地(40万ha)を農地のままにすることを目標に、07年に株式会社マイファーム(以下、「マイファーム」)が発足した。
最初の事業は、30代の家族をターゲットに子どもが土を触っても安全な、有機無農薬栽培ができる栽培キット付きの「体験農園マイファーム」をつくること。そのため、地主から耕作放棄地を借りようと、30件におよぶ飛び込み営業をするが、ほとんど拒否。知人のついで農園(1ha)を開拓者を紹介され、ようやく農地を借りることができた(08年4月、京都久御山農園(1区画15m×30区画)を開園)。
「週一回の作業でOK、農薬指導あり、農具用意すればOK」のシステムが人気を呼び、6年5ヵ月後の現在、全国86ヶ所の農園で、数千組の家族が「体験農園マイファーム」を利用している。14年には、農園で収穫した野菜を料理して楽しめる「キッチン付きのキッチンファーム」(2園)や、栽培した自産の野菜を売りたいという人のための農園(2園)も生まれた。
11年には、より深く農業を学びたい人や就職希望者に向けて「週末農業ビジネススクール アグリイノベーション大学校」(前身は「マイファームアカデミー」)を開講した。関東、東海、関西の各校(千葉、横浜、名古屋、滋賀、大阪)に、

現在80名が在学、卒業生は316名となった。学生には若い人が多く、卒業生のうち17%が独立して就農している。新就農者へのサポートとしては、農地の質良やコーディネート、体験農園経営を始めるなら利用者募集(「マイファーム」ホームページに掲載)などを手伝う。
14年には京都、東京、世田谷、名古屋に野菜を小売りする「八百屋マイファーマー」をオープンした。市民が普通立ち寄れる八百屋を目指し、有機栽培野菜の価格を抑え、少量の盛り盛りを取り入れていく。同時に、就農して間もない人が栽培した野菜(規格がそろわない場合)も買い取り、彼らの支えにもなっている(各店月3000円前後の売り上げ)。
八百屋のおいしい野菜を食べ、農業に関心をもってもらい、「体験農園マイファーム」に興味をもつ人が増えることを期待している。
以上、14年には「体験農園マイファーム」「アグリイノベーション大学校」「独立就農サポート」「八百屋マイファーマー」の4つの事業が出版し、自分でつくって自分で食べることを実践し、学び、就農し、収穫した野菜が八百屋に並ぶという「自産自消のらせん」の仕組みが完成した(図参照)。これは、「マイファーム」が当初から構想してきた「耕作放棄地が持続的に解消していく」という循環のしくみである。